

逆境のときに どう生きるかで、 人間の真価は決まる

東京パラリンピックの延期が決まったとき、思い起こした言葉があった。「逆境のときにどう生きるかで、人間の真価は決まる」きついとき、苦しいときに、私の背中を押してくれるこの言葉は、盲学校時代のクラスメイトにもらったものだ。

盲学校に通っていた二十七歳のときのこと。私は、一年後に待つ鍼灸マッサージ師の国家試験に向けて、クラスメイトとファミレスで勉強をしていた。当時の私は、中距離走のランナーとして陸上の世界大会を目指していたが、練習と勉強の両立に難しさを感じていた。クラスメイトに勉強を教えてもらっている中で、気づけば私は弱音を漏らしていた。

その帰り道、クラスメイトが、先ほどの言葉を言った

のだった。私の負けず嫌いな性格を分かって、言ってくれたんだと思う。順風満帆のときは、うまくいく。そうじゃないときに、どう生きるかがすごく大事なんだ。それから、その言葉は、いつも私を後押ししてくれるようになった。

東京パラリンピックの延期は、私にとっても大変なことだった。パラリンピックに合わせて体を仕上げてきた。さらに一年ももたないぞ。直面した逆境に、私はクラスメイトの言葉を思い起こした。

あと一年半で、できることは何だろう。発想を切り替えた私は、それこそ知恵熱が出るほどに考え込んだ。新型コロナウイルスの感染状況によっては、できることが限られてくる。週に四日、仲間とともに朝四時に出発して、誰もいないサルが出るような山へ走りに行った時期もあった。緊急事態宣言のときには、体力を落とさないために一人でできることをしようと、点字ブロックがある道路をひたすら歩き続けた。振り返ると、いつも以上に仲間を支えられ、自分に向き合って過ごした時間だった。

そして、優勝したあの日。これまでの人との出会い、そして、この日までともに走った仲間を思うと、手にした金メダルは重かった。

（聞き手：編集部）



1977年、山口県下関市生まれ。2021年、東京パラリンピック女子マラソンT12（視覚障がい）に出場し、記録3時間00分50秒で金メダルを獲得した。2022年1月15日現在、同クラス世界記録保持者（2時間54分13秒）。著書に『いっしょに走ろう』（芸術新聞社）。三井住友海上所属。